アーカイブ新聞　（2015 年 4 月 6 日　第 788 号）

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員　中桐正夫

＊メキシコ日食時（1991 年）の太陽近傍ダストリング観測装置を天文機器資料館に展示

アーカイブ室新聞第 780 号（2015 年 3 月 3 日）に「1991 年のメキシコ日食の太陽近傍のダストリング観測装置発見」という記事を書いた。メキシコ日食は 1991 年（平成 3 年）7 月 11 日にあり、国立天文台からは、3 つの観測隊が派遣された。そのうちの一つが磯部琇三を隊長とするメキシコの標高 5500m のポポカテペトル山で F コロナと呼ばれた太陽から太陽半径の 4 倍の位置にあると太陽の環を撮影しようとした観測であった。その観測に使われた 4 連偏光撮像装置（写真 1）が旧図書庫の倉庫に雑然と置かれていたものを発見した記事であった。

写真 1　メキシコ日食で使われた偏光撮像装置

メキシコ・ポポカテペトル山の磯部隊の観測は 4 連カメラによる偏光撮像観測であったが薄雲のため十分な成果は得られなかったと国立天文台太陽観測所の日食観測隊の記録に記載されている。

磯部隊は登山家でもない天文学者が住んでいる地域の空気が半分しかないという 5500m という高山に挑んだ大変な行程であった。観測地まではメキシコ軍の協力を得て何とかたどり着いたが、大変な苦労をし、高山病と闘いながらの観測であった。その様子は磯部の著書「太陽の謎に挑む」（ある天文学者のメキシコ登山日記）に詳しい。しかし、高山への体の順応期間を設けるなどの準備を十分に行うべきだったはずである。ある意味では無謀な計画だったのではないかと思われる。

その観測から 24 年を経て、その観測装置が発見された。磯部隊の苦労をしのびながら、この観測装置を天文機器資料館の一隅に展示した（写真 2)。その磯部も 64 歳で亡くなり、すでに 8 年が経ってしまった。筆者は磯部と同じ歳である。

写真 2　天文機器資料館に展示された 4 連偏光撮像装置

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp